



平成三十年一月二十日

皇紀2678年
(西暦2018年)
第160号

発行：淀姫神社社務所
〒859-4501
松浦市志佐町浦免632
TEL・FAX 0956-72-0653

平成も三十年となりました

新年おめでとうございます

これを書いているのは一月二十日です。すでに年が明けてから三週間弱。お正月の気分もとうになくなりましたが、改めて新年のご挨拶を申し上げます。

さて、今年に入ってからには天気がぐずつくことが多く、そのため少々肌寒いお正月となりました。その後ものすごい寒波がやってきたり、そうかと思えばここ数日はかなり暖かくなったりと、極端な気温変化が続いています。

なので、体調管理にも結構苦労することが多いですね。インフルエンザも大流行しているようなので、一層気をつけなければなりません。

外出したあとには手洗いやうがいや欠かさないなどの対策をきちんとし、栄養のあるものを食べて休息と睡眠をとって、免疫力を高めておきましょう。なにより健康であることが大事です。皆さまにおかれましては、今年一年を元気に過ごしていただきたいと思います。



季節の言葉で脱線あれこれ

さて、今回は「季節の言葉で脱線あれこれ」という内容でお送りしたいと思います。

この号が皆さまのお手元に届く頃には、そろそろ「節分」が迫っていると思います。節分といえは豆まきなどいろいろありますね。

◆節分とは

立春・立夏・立秋・立冬の日の前日

以前にも書きましたが、「節分」は年に4回あります。立春・立夏・立秋・立冬は、それぞれの季節の始まり。その前日で前の季節が終わります。節分とは文字通り「季節を分ける日」なのです。

さて、ここから話は脱線します。

意外と知られてませんが、暦の日付については、国立天文台が深く関わっています。

なかでも、法律で具体的に日付が決まっていない、年によっては日付が変動することがある「春分の日」と「秋分の日」に関しては、国立天文台の暦計算室が計算した日時をもとにした「暦要項（れきようこう）」というものが作られ、それを内閣府が2月の官報において翌年の「春分の日」と「秋分の日」を公表し決定される仕組みになっています。

国立天文台では、他にも二十四節気をはじめ、土用や入梅、半夏生といった雑節についても発表しています。そういう暦の日付けはもちろん、詳しい時刻まで発表しています。「節分」もその中のひとつです。

◆あの有名な陰陽師とか

こういった「暦」に関することについては、もともと天文暦学の専門家がその任に当たっていました。

日本においては8世紀頃に律令制が制定・施行され、そこに天文と暦数の専門家を司る「陰陽寮（おんよりょう）」という役所が作られました。そこには陰陽博士・暦博士・漏刻（ろうこく）博士が配属され、「暦の専門家」として天体観測や暦の算定、時刻の算出や気象観測などを行っていました。

現在も歴史にその名を残すほどに有名な陰陽師・安倍晴明も、この陰陽寮において、陰陽道と天文道を伝授されたのです。

国立天文台は、そういう意味では現代における陰陽寮といえるのかも知れません。すごいのです。

淀姫神社インターネット公式サイト「淀姫神社WEB」 <http://yodohimejinja.com/>

各種最新情報・blog「淀姫日記」にて「お祭りレポート」などなど、内容盛りだくさんでお送りしています。ぜひともチェックしてくださいませ。